

**基準諮問会議  
新規テーマを検討する際の考慮要因**

基準諮問会議に新規テーマの提案があった場合、企業会計基準委員会に新規テーマとして提言するか否かを判断することになる。その際の考慮要因としては、以下のような項目が考えられるがどうか。

1. 会計基準レベル

- (1) 広範な影響があるか。
- (2) 作成者、利用者、監査人等からのニーズはあるか。
- (3) 企業会計基準委員会が取扱うべき内容か（他の規制当局等が取扱うことが適切であるものではないか。）
- (4) 現行の会計基準の改善が見込まれるか。
- (5) 適時に会計基準の開発が可能か。

2. 実務対応レベル

- (1) 広範な影響があるか。
- (2) 作成者、利用者、監査人等からのニーズはあるか。
- (3) 会計実務における多様性はあるか。（多様性の解消により比較可能性の改善が見込まれるか。）
- (4) 会計基準レベルのものではないか。
- (5) 適時に実務対応報告等の開発が可能か。

以 上

(参考) IASB 及び IFRS 解釈指針委員会のアジェンダ要件

< IASB のアジェンダ設定の判断要因 >

[現状のデュー・プロセス・ハンドブック]

- ◇ 関連情報の利用者にとっての目的適合性及び提供され得る情報の信頼性
- ◇ 利用可能な現行のガイダンス
- ◇ 一層のコンバージェンスの可能性
- ◇ 開発される IFRS の質
- ◇ 資源上の制約

[2012 年 5 月の改正デュー・プロセス・ハンドブック公開草案]

- ◇ 財務報告書を利用する人々にとっての当該事項の重要性
- ◇ 提案の影響を受ける可能性の高い企業の種類 (当該事項が一部の法域で他よりも一般的であるかどうか)
- ◇ 特定の財務報告の論点が、企業にとってどれだけ広がり又は深刻さがありそうか。

[2012 年 5 月のアジェンダ・コンサルテーションへの対応を IASB で検討した際にアジェンダの優先順位としてアジェンダ・ペーパーに記載された項目]

広範さ	どのくらい多くの企業や地域に影響を及ぼすか。
深刻さ	それらの企業にどの程度深刻に影響を及ぼすか。
投資者	どのように投資者に影響を与えるか。
実行可能性	実行可能な解決策を識別できるか。
相互関連性	解決策が概念フレームワークなどの他の作業に依存しているか。
時間軸	効果的な解決策を適時に達成できるか。
コスト・ベネフィット	発生しうるコストは便益を上回るか。

< IFRS 解釈指針委員会のアジェンダ要件 >

[2012 年 5 月の改正デュー・プロセス・ハンドブック公開草案]

- (a) その論点は広がりがあり、実務的であるか。
- (b) その論点は多様な解釈を生じる (生じつつあるか又はすでに実務で存在する) ものか。
- (c) 多様性の解消により財務報告が改善されるか。
- (d) その論点は IFRS 及び「財務報告に関する概念フレームワーク」の枠内で解釈可能となるのに十分な程度に範囲が狭いが、解釈指針のプロセスを適用することが非効率となるほど狭くはないものか。
- (e) その論点が IASB の現在の又は計画されているプロジェクトに関係している場合には、IASB の活動から期待されるよりも早く指針を提供する緊急のニーズがあるか。